

助成事業実施報告書

団体名 特定非営利活動法人復興応援かけこみキャラバン

代表者・役職名 氏名 理事長 熊谷 勝美

▼報告書の扱い、および記入にあたっての注意点

この報告書(精算報告書以外)は、ホームページなどで公開する予定ですので、広く読まれることを想定してご記入ください。また、編集段階で、表記・表現等を事務局で編集する場合がありますので、あらかじめご了承ください。語尾の表現は「です・ます」調をお願いします。報告書に掲載するため活動の内容がよくわかる写真(2枚程度。写真の肖像権問題がないものの提出をお願い致します)を添付して下さい。

1. 助成プロジェクト名

東日本震災復興応援秋祭り

2. 実施団体の概要(創設の経緯、創設時期=法人で、法人化前に任意団体での活動がある場合、その段階からご記入ください。会員数など。180文字程度まで)

2011年3月11日東日本大震災に際し、東京多摩地区のフリースペース「かけこみ亭」に集う有志が、各自の得意分野を活かして被災された東北の方々を応援しようと同年5月に任意団体を立ち上げました。被災地で被災者から話を聞く中で、子どもたちは遊び場を失い、音楽活動をしている方々も発表機会を失われた等の状況を知りました。縁のあった岩手県釜石市で2012年に「東日本震災復興応援秋祭り」を開催し、以後年1回開催してきました。2014年より現地からの要望で2日間開催となります。

3. プロジェクトの目的とその背景(※応募申請書に記載のものでも可) 250文字程度まで

震災後5年が経ち、甚大な津波被害を受けた釜石市でも災害公営・復興住宅等の整備が始まり、市内68ヶ所の仮設住宅は20ヶ所に整理集約される計画です。しかしこれにより、現地の人々は震災後に築いてきた生活基盤やスタイル、コミュニティの変容を迫られています。本「秋祭り」への現地からの強い要望中には、このようなコミュニティの再会・交流の場としての期待も寄せられます。「秋祭り」・「音楽祭」が、子どもたちへの遊び場の提供、現地キッズダンスや音楽等の発表機会の創出、演奏を通じた交流や被災した方々への癒しの場の提供することを目的とし、現地の人々が集まり再会・交流が生まれることを目指しました。

4. プロジェクトの内容(※当初予定と変更がない場合は、応募申請書に記載のものでも可) 300文字程度まで

2016年9月に岩手県釜石市シープラザ遊において「東日本震災復興応援秋祭り」・「釜石復興 音楽祭」を開催しました。東京から会員・スタッフ23名が釜石市に赴き、現地協力者とともに活動しました。開催準備期間と終了後に計6回の現地打合せも行いました。各プログラムは次の通りです。9月24日「秋祭り」：餅つき・餅まき、肩もみ肩たたき、キッズコーナー(缶バッジ作成、ピエロと遊ぶ、バルーンアート、皿回し、等)、地元カラオケ大会、新舞踊、クラウンパフォーマンス、お楽しみくじ、絆ショップ、地元キッズダンス、炊き出し、音楽演奏。9月25日「音楽祭」：音楽演奏、餅つき、お楽しみくじ、絆ショップ、キッズコーナー、炊き出し。

5. プロジェクトの実施で得られた「結果」(OUTPUT。実施回数や参加者数など)、「成果」(OUTCOME。事業によって生まれた直接的な変化)、「社会的な変化」(IMPACT。事業が社会に与えた影響)などの『効果』 300文字程度まで

2016年の「秋祭り」・「音楽祭」の来場者数は、2日間のべ898名で、初回の参加者数182名から5倍近くに増加しました。毎年来てくださる方もいる一方で、新しく足を運んでくださる方も増えています。現地スタッフとなってくださった「常連」の方もいます。主催者として出演者・協力者間の紹介を求められ、釜石近隣地域の協力者の間に新しい繋がりが生まれる場面もありました。「秋祭り」開催を軸とした人的ネットワーク構築は前進していると感じます。開催前後の現地打合せは計6回実施し、各回で概ね10名前後の釜石・遠野の協力者と懇談しました。

その中で、積極的に「現地スタッフ」としての意見を出し、あるいは独自に動いてくださる方が増えてきました。釜石現地の方々から、「秋祭り」を「釜石市民の発信するイベント」、「コミュニティ再会交流の場」として定着・発展させようという意思を感じます。

6. プロジェクト実施にあたっての課題、今後の展望など 300文字まで

「『秋祭り』と『音楽祭』を『釜石市民が発信するイベント』として手渡す」ため、今後5回は継続して開催します。そのため、地元協力者との連携をより緊密にし、地元スタッフの関わりを増やしていきます。

「人的ネットワーク構築」では、子ども同士のつながりについても考え始めました。福島市から米沢への定期的な保養保育を実施する団体と繋がり、福島・釜石双方の子どもたちに地元以外で友達を得る機会提供について検討を開始しました。

一方、現地の生業(飲食店の出店等)を取り込み生業活性化を図ることは、諸事情から時期尚早と判断し、今回は見送りました。釜石市民が「秋祭り」主催者となる時点での実現を目指し、今後も方策を探ります。

7. 参考資料

支援対象プロジェクトで作成したチラシ、パンフレットやマスコミで紹介された記事等は現物またはコピー、活動状況の写真などを参考資料として提供してください。

参考資料あり・特になし

参考資料は後日送付します。また、同意書もその時に同封いたします。遅れて申し訳ありませんが、何卒よろしくお願い申し上げます。

NPO法人 復興支援かじり：みき+らばん
事務局 志村 玲子